

東日本大震災 7年を覚えての礼拝

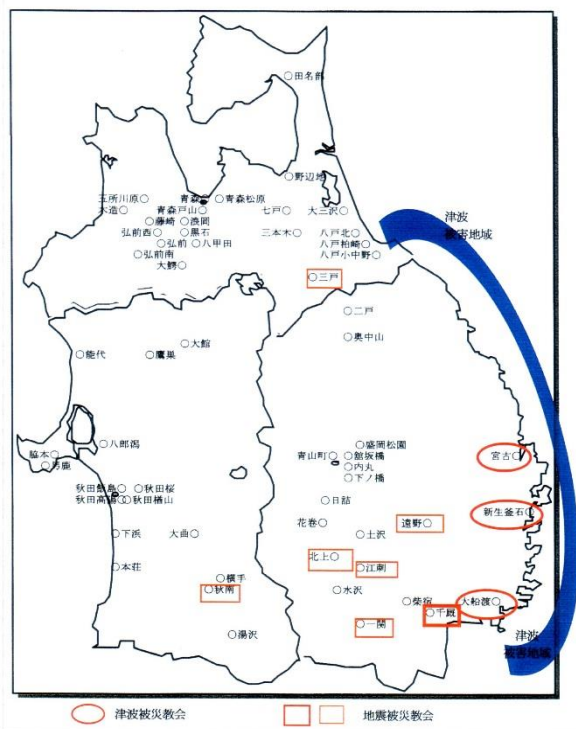
2018年3月

第六期奥羽教区長期宣教基本方針

「希望に生きる教会」

[2013年度～2022年度]

日本基督教団奥羽教区 58の教会・伝道所



2011年3月11日東日本大震災被災教会の位置

日本基督教団奥羽教区

〒020-0025 岩手県盛岡市大沢川原3丁目2-37

奥羽キリスト教センター内

電話 019(622)5770 ファクス 019(623)7975

被災教会支援募金送付先(ゆうちょ銀行)

口座名義 日本基督教団奥羽教区

振替番号 02260-6-125752

各地区会場

地区	会場	日時
北西	弘前教会	21日(水)午前10時30分
北東	大三沢教会	11日(日)午後2時
岩手	宮古教会 一関教会	11日(日)午後2時30分
秋田	秋田桜教会	10日(土)午後2時

各地区礼拝担当表

地区	会場	司式者	説教者	奏楽者	献金担当
北西	弘前教会				
北東	大三沢教会		小友睦	小林よう子	宣教委員・大三沢
岩手	宮古教会	岡あやこ	稲垣裕一		
岩手	一関教会		柳沼赦羊子	鈴木摩耶子	
秋田	秋田桜教会	安藤昭良	崔長壽	浅沼千春	秋田桜・大曲

礼 拝 順 序

<はじめに>

司式者：奥羽教区では、東日本大震災後、毎年3月にそれぞれの地区においてこの日を覚えるための礼拝を大切にしてきました。今年も、東日本大震災7年を覚える礼拝がそれぞれの地区において守られています。

この日の礼拝は何のためにもつのでしょうか。何のために集まるのでしょうか。亡くなられた方を覚えるためでしょうか。あのときの出来事を風化させないためでしょうか。あの出来事から7年を迎えた私たちです。もしかすると、この礼拝に集った方々の中には、東日本大震災を経験していない人もいるかもしれません。しかし、この日を迎え、この礼拝に集ってきた私たちの中には、様々な思いが浮かびます。思い出したくない出来事、悲しみの出来事、あの人の顔、あのときの状況、学びたい気持ち・・・改めて、それらの思いを神さまに委ね、この礼拝にあずかりましょう。

前奏に耳を傾け、礼拝に備えましょう。

<招 き>

黙 禱 (前奏曲)

招きの言葉

司式者：すべてのものの造り主、全能の神よ。今私たちはあなたの御前に集い、東日本大震災7年を覚えての礼拝をささげています。奥羽教区では、毎年この礼拝を大切にし、各地区の中で共に礼拝を献げてきました。それぞれの地にあって、神さまの豊かな慰めを、導きがありますように。この礼拝を通して、あなたの希望が私たちに示されますように。私たちの心を開き、この礼拝の中心にあなたがいてください。

全地よ、主に向かって喜びの叫びをあげよ。

喜び歌い、主に仕え、喜び歌って御前に進み出よ。

讃美歌 430 (とびらの外に)

430

神の招きと応答
とびらの外に

[1240]

O Jesus, Thou art standing
詞 : William W. How, 1823—1897

ST. HILDA (ST. EDITH)
曲 : Justin H. Knecht, 1752—1817, Edward Husband, 1843—1908

1 とびらのそとにたちつづけて
2 かたくとざした戸をたたいて
3 わたしのために死んだイエスの

すくい—のイエスはまっておられる。
い—ま—な—お—イエスはよびつづける。
そのあ—われみをなぜこ—ばむか。

主イエスのあいのそのかさ—よ、
主イエスのあいのそのひろさ—よ、
かたくとざした戸をひらいて

われら—のつ—みのそのふかさ—よ。
ひとの—こ—ころのそのよわさ—よ。
こころ—のな—かに主をむかえ—よう。

(♩=88)

挨拶

司式者：私たちは今、それぞれの教会から集ってきました。久しぶりの再会があるかもしれません。初めての出会いもあるかも知れません。互いの出会い、再会に感謝して今からしばらくの間、挨拶の時を持ちます。ご自由に席をお立ちくださり、挨拶を交わしましょう。

※握手が苦手という方もおられるかも知れません。互いに配慮しあい挨拶いたしましょう。

あの時を覚えて

司式者：2011年3月11日午後2時46分、東北地方太平洋沖地震が発生し、多くの被害が生まれました。全国では15,894名の方々が亡くなられ、今もなお、2,546名の方々が行方不明です。復興が叫ばれるなか、今もその爪痕が残されています。

そして、原発事故等による被災によって、今も自分の家に帰ることの出来ない方々が77,436名おられます。放射能被害、住居が失われた方、差別・・・7年がたった今もそこに住む方々の中には、あのときから時が止まったままの方々がいることを覚えます。

奥羽教区において最も被害の大きかった岩手県では、死者4,672名、行方不明者1,122名、青森県では死者3名、行方不明者1名、震災関連死は3,647名を数えます。

大船渡を初め、土地のかさ上げ工事が始まったり、堤防の再建工事が行われたり、建物や道路、土地の復興は進みつつあります。しかし、未だ、震災から時が止まったままの方々がおられることを知っています。

毎年、奥羽教区では3.11.を覚える礼拝をしてあの時のことを覚え続けてきていますが、奥羽の地にいる私たちでさえ、少しずつその記憶が失われつつあります。

私たちは、今日、改めて、あの時のことを思い起こし、不安な思い、悲しみの思い、つらかった思い、うれしかった思い、心が痛んだ思いを思い出し、それらを神さまに委ねましょう。しばらくの間黙祷いたしましょう。

黙 祷

祈り

司式者：神さま、今、私たちはあの時のことを思い出し、あなたにお献げいたしました。思い出したくないこと、思い出すことによって、また心に痛みを覚えた方々もおられるかもしれません。どうか、そのような一人一人にあなたの慰めと希望を与えてください。

(司式者による自由な祈り)

これらの祈り、希望の源である主イエス・キリストの御名によってあなたの御前にお献げいたします。アーメン。

<7年が過ぎて>

奥羽教区内被災教会の現状報告

(注) 奥羽教区内被災4教会について特にこれまで覚え続けてきたが、本礼拝では、昨年度大きな動きのあった教会、会堂再建、修繕について今大きな課題を担っておられる教会について報告

(報告文は一例)

宮古教会：

江刺教会：

<み言葉に聞く>

聖書 ①ヨハネによる福音書第11章28～37節

マルタは、こう言ってから、家に帰って姉妹のマリアを呼び、「先生がいまして、あなたをお呼びです」と耳打ちした。マリアはこれを聞くと、すぐに立ち上がり、イエスのもとに行った。イエスはまだ村には入らず、マルタが出迎えた場所におられた。家の中でマリアと一緒にいて、慰めていたユダヤ人たちは、彼女が急に立ち上がって出て行くのを見て、墓に泣きに行くのだろうと思い、後を追った。マリアはイエスのおられる所に来て、イエスを見るなり足もとにひれ伏し、「主よ、もしここにいてくださいましたら、わたしの兄弟は死ななかつたでしょうに」と言った。イエスは、彼女が泣き、

一緒に来たユダヤ人たちも泣いているのを見て、心に憤りを覚え、興奮して、言われた。「どこに葬ったのか。」彼らは、「主よ、来て、ご覧ください」と言った。イエスは涙を流された。ユダヤ人たちは、「ご覧なさい、どんなにラザロを愛しておられたことか」と言った。しかし、中には、「盲人の目を開けたこの人も、ラザロが死なないようににはできなかったのか」と言う者もいた。

讚美歌 531 (主イエスこそわが望み)

聖書 ②コリントの信徒への手紙Ⅱ第1章3～7節

わたしたちの主イエス・キリストの父である神、慈愛に満ちた父、慰めを豊かにくださる神がほめたたえられますように。神は、あらゆる苦難に際してわたしたちを慰めてくださるので、わたしたちも神からいただくこの慰めによって、あらゆる苦難の中にある人々を慰めることができます。キリストの苦しみが満ちあふれてわたしたちにも及んでいるのと同じように、わたしたちの受ける慰めもキリストによって満ちあふれているからです。わたしたちが悩み苦しむとき、それはあなたがたの慰めと救いになります。わたしたちが慰められるとき、それはあなたがたの慰めになり、あなたがたがわたしたちの痛みと同じ痛みを耐えることができるのです。あなたがたについてわたしたちが抱いている希望は揺るぎません。なぜなら、あなたがたが痛みを共にしてくれているように、慰めをも共にしていると、わたしたちは知っているからです。

説教 (聖書箇所①、②のどちらか、あるいは両方による)

会場	説教者	説教題
北西地区		
北東地区	小友睦教師	
岩手地区	稲垣裕一教師	
岩手地区	柳沼赦羊子教師	
秋田地区	崔長壽宣教師	

祈 禱 説教者による

讃美歌 390（主は教会の基となり）

<8年目に向けて>

交 禱

司式者：この世界を造られた神よ。

東日本大震災から7年の時を迎え、新しく8年目に向けて歩んでいきます。今もなお多くの人々が苦しみ、悲しみの中におられることを覚え祈ります。主よ、私たちの中に、新しい希望をあなたが造り出してください。

会 衆：主よ、わたしたちの祈りを聞き、私たちを用いてください。

司式者：私たちを支配される神よ。

東日本大震災から7年の時を迎え、新しく8年目に向けて歩んで行きます。

地震、津波、原発事故によりすべての財産と家と故郷と、愛する人々を奪われた人々、将来を見出すことができずに絶望のうちに座り込んでいる人々を覚え祈ります。あなたが私たちを支配し、あなたの愛で満たしてください。

会 衆：主よ、わたしたちの祈りを聞き、私たちを用いてください。

司式者：私たちを祝福される神よ。

あなたは私たちにいのちを与えてくださいました。3月11日。私たちには忘れ得ない日ですが、この日が誕生日、結婚記念日など、「晴れの日」だった方々もおられます。すべてのいのちを喜び祝うことができますように。

会 衆：主よ、わたしたちの祈りを聞き、私たちを用いてください。

東日本大震災から7年の時を迎え、新しく8年目に向けて歩んで行きます。

悲しみからの解放を、憂いからの解放を、不安からの解放をあなたが造り出してください。

司式者：主よ、私たちの祈りを聞き、私たちを用いてください。

会 衆：東日本大震災から7年の時を迎え、新しく8年目に向けて歩んで行きます。

悲しみに支配される時があります。絶望に支配される時があります。新しく災害が起こり、古い出来事は忘却に支配されます。そのような私たちをあなたの愛で満ちあふれるように支配してください。

司式者：主よ、私たちの祈りを聞き、私たちを用いてください。

会 衆：東日本大震災から7年の時を迎え、新しく8年目に向けて歩んで行きます。

新しく歩んで行く私たちにあなたの命を与え、力強く歩ませてください。民族を超え、地域を越え、国を超え、私たちが互いの違いを

認め合い、赦し合い、わたしらしく生きる世界を作らせてください。

- 一 同：主よ、私たちの祈りを聞き、私たちを用いてください。
主イエス・キリストの御名によって。アーメン

献 金 奥羽教区被災教会支援のために

主の祈り

天にまします我らの父よ、
ねがわくはみ名をあげさせたまえ。
み国を来らせたまえ。
みこころの天になるごとく
地にもなさせたまえ。
我らの日用の糧を、今日も与えたまえ。
我らに罪をおかす者を 我らがゆるすごとく、
我らの罪をもゆるしたまえ。
我らをこころみにあわせず、
悪より救い出したまえ。
国とちからと栄えとは
限りなくなんじのものなればなり。
アーメン。

<派遣と祝福>

讚美歌 91 (神の恵み豊かに受け)

派 遣

司式者 主は言われます、「わたしは誰をつかわすべきか」。

会 衆 わたしがここにおります。わたしを遣わしてください。

司式者 キリストの平和の使者として、行きなさい。

祝 禱 説教者

後 奏